

令和元年度 第5回沼田市市民構想会議の概要について

1 日 時 令和元年11月14日（木）午後2時から午後4時15分

2 場 所 沼田市役所 第2委員会室（テラス沼田5階）

3 出席者

（1）委員 林 勝男委員、生方秀二委員、岡嶋稜子委員、小野里順子委員、
角田郁子委員、六本木勇治委員、鈴木 誠委員、山田龍之介委員、
小田川裕哉委員、原口庄二郎委員（10名）

（2）アドバイザー 篠田 暢之氏

（3）沼田市 五十嵐副市長、川方総務部長
（事務局：矢代企画課長、武井補佐兼企画係長、小野里主事）

4 配付資料

○次第

○第4回沼田市市民構想会議の概要について

○生き生き長寿のまちづくり計画

○利根沼田夢大学オープンキャンパスの新聞記事（六本木委員提供資料）

5 概 要

（1）開会（事務局：企画課長）

（2）会長あいさつ（生方秀二会長）

（3）前回の会議結果について（事務局：企画課長）

○「第4回沼田市市民構想会議の概要について」により説明した。

（4）議題

1) 『沼田の広報力の向上』の検討について

<アドバイザー意見>

市民構想会議の議論の方向性について、今後の議論が可能な限りバランス良く総合的に進められるよう4つに区分しましたが、具体的な議論を進める際にも、委員の皆様方の問題提起が相互に関係を持ち合う内容を議論する事になると考え大別し、区分しました。

ところで唐突ですがマツコ・デラックスさんのテレビCMで、柿の種とピーナッツの配合をめぐる、子供とやりとりする宣伝をご存知でしょうか。

私がこのCMにふれる理由は、これが商品紹介を超えて、私たちに根本的な問題提起をしていると直感したからです。マツコさんはCM中で「前提を疑え」

と繰り返します。CM自体は柿の種とピーナッツの配合を元に戻した方が良いという内容ですが、登場する2人の子供達はそんな事は「どうでもいい」と返します。これにマツコさんは怒り「前提を疑え」と、CM中で繰り返すのです。この「前提を疑え」は意味深長です。科学の根本姿勢だからです。

沼田市の未来の街づくりにも、「前提を疑え」という問題提起が、しっかり当てはまるように思います。この沼田市市民構想会議も一度、従来の前提を取りはずし、未来を見すえた議論を進める必要があると思います。その為にも、前提を疑い、前提を取り外して考える事が期待されていると思います。

市民構想会議もこれまで進められてきた従来の街づくりの前提を取り払い議論する事が『広報力の向上』にも役立つ議論が進むのではないかと考えます。「広域合併型自治」を基本とする従来の街づくりは、もはやこれまでのようにはいきません。従来の基本（前提）に代わり、「地域自立型自治」が住民の意思としても尊重され、それに沿って考えることが急がれているからです。つまりこの会議では何よりも新たな枠組みとなる前提を確認し、それを共通土台として議論を進めることが求められているのです。

皆さんは、各分野の代表者として沼田の未来を提言する豊かな見識をお持ちのことと思います。これを契機に、これまでの地域の在り方やその仕組みをあらためて総点検する議論を従来の前提を疑うことから初めては如何でしょうか。その為には、まずは引き算をすることが、基本となるように思います。

引き算は大人の知恵と言われます。問題解決に必要な優先事項をこのままで良いのかどうか、再検討することです。地域自立型自治では、道路に穴があいたから何とかならないか等、目の前の問題に関心が向きがちとなる事も理解できますが、この市民構想会議では、未来に火を灯す役目を担う会議ですから、個別具体的な問題解決をこの席で話し合うより、総合的視野に立った議論が求められていると思います。行政中心による従来型の街づくりから住民主体による住民の支え合いを主軸にした、街の未来形を議論する事が重要かと思えます。

東京商工リサーチのデータでは日本には25万1,140店の理容店がありこの数字はコンビニの4.5倍だそうです。がこの数年、理容店の倒産・廃業が急加速していると言及しています。生活に必須の業種でさえこの現状です。何時でも髪を切る事が出来た、従来の前提を疑う現実が急加速しています。

保健衛生上の問題につながる髪を切る店舗の倒産・廃業問題からこの先の暮らしの一断面が見えてきます。沼田の街づくりがより良い未来形の議論となるようにするためにも、従来の基本的な条件となっていた前提を疑う事から議論する事は、転ばぬ先の杖となり、大切な街の資産を守る可能性を広げられます。

『広報力向上』は、他の地域でも進めている地域活性化の取り組みのひとつですが、沼田に備わった多くの可能性の条件を、広報力向上の面からも今一度鮮明にする、引き算の思考が重要です。

この地域は農業に従事される方々も多いと伺っています。が、農業従事者の3人に2人は65歳以上です。そのためここでも後継者問題が目の前の課題です。国は海外からの実習生を受け入れる政策を進め、問題解決を図ろうとしています。この問題は沼田の問題でもあり、対策が急がれます。

農林水産省のデータでは日本の食卓から野菜が消えていく現実が始まったと指摘し、高齢世代の方々が野菜を食べられず体調を崩し病院に駆け込む事態が続いていると報告しています。野菜高騰が2017年に続き18年も価格高騰が続き、高齢者の方々が野菜を十分に食べられなかったと分析しています。

背景には手間のかかる野菜を育てる農業には限界があり、加えて年収500万円以上の農家が32%も減少し、農業をするにしても何を対象に育てるのか、その絞り込みの議論も重要です。もはや農業を漫然とできる時代ではありません。それなら輸入をすれば良いのではと思いますが17年18年と野菜の輸入はほとんどされていません。健康長寿の為に野菜が必要でも同様な事態が起きても野菜輸入は難しいのが現実です。

私たちが健康長寿を維持するためにも食べ物の生産である農業問題を除外してはその維持も困難です。こうしたことを含め従来の前提を取り払い、皆さんの日頃のお考えをご提言いただければ、この市民構想会議は良い成果につながれると思います。

<提案者からの意見>

○ 観光開発

観光でも他の分野でも課題を1つに絞ることで、スムーズな実りある話し合いができるのではないかと。その上で全員が共通認識を持って取り組むことが大切だと思う。

<その他の主な意見>

○ テーマを決めて、新しいものではなく、今ある観光資源で利用されていないものを組み合わせていくのが良いと思う。共通のテーマに沿って動いているとヨコの繋がりもできるのではないかと。沼田は「天空の城下町」としてPRしており、昔から沼田城をつくるという話もあるが、城をつくって人が集まるのか、市民にとってどのくらい価値があるのかを考えないと、何のための城か分からなくなってしまう。何か1つ核になるようなテーマを決めてそれに結びつくキャッチフレーズなどを考えていくべきだと思う。

○ 沼田は景色が綺麗で、空っ風もなく、住みやすい環境だと思う。森林文化都市・農業・観光をキー（手掛り）にして活性化を図るのが一番良いのではないかと。沼田に来た人をいかに滞在させるか、消費させるかが必要だと思うので、街なかにも人を引きつけられる仕組みがあると良いと思う。

- 景色が綺麗な田舎風景というのは他にもたくさんあるので、街なかの匂いや食べ物など景観以外の強みが必要だと思う。
- 利根沼田地域の地域活動の中心を担うのが沼田であるようにしたい。まずは沼田に来て、川場村やみなかみ町などに行くような中心的な役割を担う存在であって欲しい。沼田城の建設も市民にはあまり理解されないようだが、この会議の中で沼田城の必要性も感じてもらいたいと思う。
- 個人的には沼田城の建設は反対である。莫大な赤字になるという統計データも出ている中で、造ることにあまり意味を感じない。また、市民に沼田城は根付いておらず、「真田丸」で沼田城が注目されたとはいえ、結局、誰が城主なのかは、殆どの方が知らないと思う。それならば茂左衛門のように子どもの頃から親しんでいるような人たちに焦点を当てる方が良いと思う。
- まずは市民が沼田の良さを自覚することからできたら良いと思う。個人的には「沼田公園のツツジ」と「沼田の歌」の魅力がまだまだ十分に発信できると思うので、今後、更に広めていきたいと思っている。
- 今から10年後には国内の宿泊者の7割が外国人になる統計が出ている。現在、多くの外国人が来日し、大きな経済効果も生まれているが、地域が外国人を受け入れる環境や文化を知っていないと、「場所」以外の魅力が伝わらない。そういったものをきちんと伝えられるよう広報力や地力をつける必要がある。地域の総合力を生かしてサービスを提供できれば、地域の経済的な自立にも繋がると考えている。
- エストニアでは、戦渦に巻き込まれた歴史から、なくならない国づくりを目指して、電子国家を推進しており、行政サービスの99%が電子の中にある。現在は、少子高齢化に伴い、自治体の運営が難しくなり、行政サービスがうまく行き届かない地域も増えている。電子化やAI技術を利用して業務を最適化していくことが、今後、利根沼田の自治においても利用できるのではないかと。その中でキーワードになってくるのが、“SDGs（持続可能な開発目標）”であり、世界的な取り組みとなっている。世界は2030年以降を目指して動いているが、そのときに主体となる世代の人たちが、生き生きと暮らせる地域づくりを行っていくことを目標に取り組みたい。
- 沼田市の情報をもっと外に出したら良いのではないかと。今の若い人は、インターネットで口コミやその場所の情報を事前に調べてから出かけることが多いので、観光協会などHPを持っている団体に、沼田市の魅力をもっと発信してもらいたいと思う。
- 子どもが着物を着る機会が少なくなったように、徐々に日本情緒を感じる機会が減ってきたように感じる。現代に向けて、外国に向けて取り組みを行うことも大切だと思うが、昔の城下町だった頃の雰囲気も大切にしてほしい。
- 会議や資料などに横文字が多すぎると思うので、誰にでも分かりやすい言

葉を使ってほしい。

- 沼田に住んでいると当たり前のように野菜や果物を食べているが、外部の人には、とても美味しくてびっくりすると言われることが多い。自分たちが思っている以上に評価されているので、もっと自信を持って発信していくべきである。
- 地力や観光、財政、グリーンツーリズムなど全てが一つになると沼田市が元気になると思う。HPなどで沼田城や野菜、果物、迦葉山など沼田の良いところは発信されているが、まだまだ外から人が来ない。その理由を考え、改善していくには、横文字やインターネット、若い人を引き付ける魅力などの新しい分野の力が必要ではないか。まずは、地域1人1人の意識を変え、どういう地域にしていきたいのか考えることが大切だと思う。

<質問>

- 沼田の観光農園の出荷数(ほかの市町村へのお荷数)はどのくらいなのか。
- 観光農園での売買、または直売所での売買が殆どのため、各農園での流通は盛んですが、市場にはほとんど出回っていません。
- ツアーの中に観光農園を入れることで観光客に発信できるのではないか。観光ツアーにおいて会社と個人農園をつないでくれるような取り組みがあれば良いと思う。

2)『少子高齢化対策』の検討について

<事務局>

- 「生き生き長寿のまちづくり計画」について説明した。

<アドバイザー意見>

2016年の統計データによれば、親の年金や収入に頼って、親と同居している、35歳から40歳代の人たちが増加している現実が見えてきます。

また、5年後を推計した統計分析からも、後継者不足から黒字経営の企業が黒字廃業せざるを得ない『大廃業時代』が始まっている事も明らかにされています。経済産業省のデータでも、税収にも影響するこの事態を危惧しています。それは2016年段階でさえ、個人事業者の半数以上の企業の後継者が決まっていない大廃業の到来予測からも見て取れ、累計で660万人の雇用が失われ、22兆円の経済的損失が生じると想定されているからです。

このような事実を共通認識に持ち、少子高齢化問題にどのような対策を講じるのか、議論を早める必要があります。明るい話題ではありませんが、事実として認める事態が日本全体に差し迫ってきているからです。

そのため、これらの問題解決には、戦略的に縮む事が重要です。引き算によって生まれた余力を、重点的に必要な問題解決にその余力を使えるからです。

“戦略的”とは、沼田のまちに必要な条件を、沼田の未来の為に必要とされる独自の優先順位に整え直す、皆さんの議論です。とりわけ未来の世代負担を少なくする工夫と取り組みは、その意味からも早速、進める必要があります。

冒頭で宅配便が充実して、物の購入が便利な社会になったと感じておられる市民の方の紹介がありました。確かに宅配業者の方々のお陰で、物流の恩恵に与る便利な世の中です。しかし数年後には宅配便のドライバー不足が深刻化すると予測されており、生活必需品を注文しても、必要な時に必要とする品々が、今のように届かなくなるというのです。

少子高齢化による人口減少問題による影響が未来の生活に影を落とす切実な問題であることが分かります。外国人労働者を宅配便のドライバーに採用しても、従来通りには物事が種々な理由から進まないとも考えられており私たちの生活を待ち受ける現実を先回りして乗り越える知恵と工夫が求められます。

先にも触れた、8050問題、7040問題と指摘される深刻な状況が日本中で加速しています。親の面倒を見るため40歳代から50歳代の働き盛りの世代の方が離職する傾向が加速し止まりません。こうした傾向は地域経済全体に悪影響を及ぼすことから、少子高齢化問題を個人に押し付けていく在り方が「問題の先送り」に過ぎず、むしろ一層厳しい現実を生み出す基となります。

厳しい現実を示すデータを、沼田の未来を考える共通理解の基礎と受け止めて頂けると、この後の議論が進めやすくなるように思います。

<主な意見>

- 30～40歳の世代で未婚の人が多くなっていること、子どもが減っていることは、当地域でも実感としてある。
- 高齢者の子ども世代は県内に住んでいる方が多いが、孫世代は県外に住んでいる方が多くなっているように感じており、今の現役世代が高齢になったときに子どもを頼れなくなると危惧している。
- 地元の金融機関でも事業承継について支援しているが、経営が順調であれば後継者も確保しやすくなるので、そうした好循環を築いていかなければならないと考えている。
- 県外への人口流出に伴い、相続が発生したときに、個人預金が地元の金融機関からメガバンクなどに流出する悪循環になっているので、経済対策を講じることも必要になっている。
- 沼田で子どもを増やすという政策を議論しても、これから生まれてくる子どもたち、沼田から東京に移り住んでいる若者たちが議論に加わっていないので、こちらの思いを伝えられず状況が良くなっていないので、そうした議

論はあまり意味が無いように感じている。

- 地域にふれあいの場所を設け、健康寿命を延ばすことで元気な高齢者が互助関係で支え合う仕組みを築けると、昔のように地域も元気になると考えている。
- 地域のふれあいの場所として空き家の活用を考えられないか。
- 若者世代が高齢者になった時の社会保障制度を、今から考えて対策を講じていく必要がある。
- 現在の社会保障制度は充実していて、高齢者が元気であるが、そうした社会保障制度は将来的に担保されるものではないので、若い世代に目を向けた議論が必要である。
- 当地域には地縁が残っており、都市部と比べたときに孤独死は少ないが、地区により小中学生が一人もいないなど、子どもの減少は深刻な問題になっている。

<アドバイザー講評>

少子高齢問題は、基本的に高齢化社会・対策と理解すべき内容です。高齢化社会で必要な事は高齢者の方々が元気で過ごせる事です。“今日、行くところがある”、“今日、用がある”を、自ら作り出す生き方だと言われています。

誰かに手助けしてもらうことを当然と考えるのではなく、出来ることは可能な限り自分でやり、無理な場合にのみ、必要な手助けを得る事が出来る仕組みを利用する生き方です。最優先される事は、命を守るためのシステム構築です。

高齢者の一人暮らしの孤立状態が進んでいますが、その防止システムが求められています。高齢化は陸の難民化とも言われ誰とも連絡をとれない孤立無援の状態の高齢者の増加が社会問題化しています。高齢者が相互に支え合えるシステム等、命を最優先する前提から、独居化防止の議論と共に、その課題解決のシステム構築が必要です。

この市民構想会議では命に優しい安全・安心な在り方を議論することが沼田の少子高齢対策であり、その取り組みを通して、この地域は安心して暮らせるということが市民の方に浸透していけば、故郷に帰ろうと思う人も増え、それによって経済の好循環にもつながっていくと思います。

人口減少時代は『維持こそ最大の成長』と考えることが大切です。“継続は力なり”と同様に、健康を基礎に命を維持できることは高齢者にとっても地域にとっても、社会は力を持続できていると考えられるからです。

一般的には人口減少に伴う社会ではあらゆる条件が低下していく社会です。しかしそうした状況でも、現状維持や継続ができていれば成長していると考えて間違いありません。その為にも、従来の成長とは異なる新しい時代にふさわ

しい質の成長である成熟が時代の求めとして始まっていると考える時代です。その意味で、少子高齢社会に求められている必要な議論は優先順位の再検討を避けては通れないのです。

金融の好循環のご意見がありました。が、経済の血液とも形容される金融に留まらず、戦略的に縮むことは戦略的に好循環を誘発していける仕組み造りでもあるのです。皆様方のご意見を拝聴して、各種のご意見をひとつにまとめていける共通課題を十分に議論できると拝聴しておりました。

3) その他

- 次回の協議事項については、「少子高齢化対策」について、「地域コミュニティの再構築と拠点づくり」についての意見を伺うこととした。
- 次回、次々回の会議日程について、事務局から次のとおり調整したい旨を説明し、確認いただいた。

＜第6回＞ 日時：12月 3日（火） 午後2時

＜第7回＞ 日時： 1月21日（火） 午後2時

(5) 閉会（事務局：企画課長）